

第30回電波功績賞 「総務大臣表彰」「電波産業会会長表彰」受賞

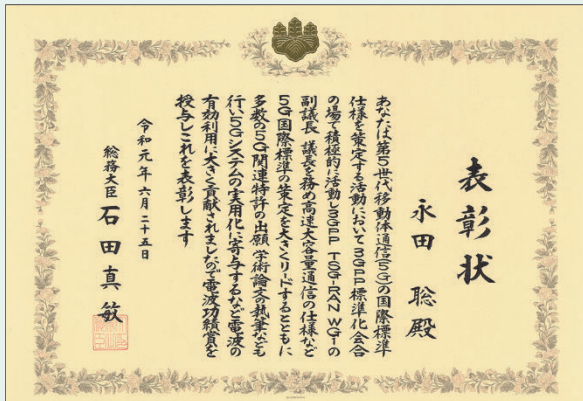
2019年6月25日に開催された第30回電波功績賞表彰式において、5Gイノベーション推進室の永田聡が「第5世代移動体通信システムの実用化に向けた国際標準仕様策定」について総務大臣表彰を、無線アクセスネットワークのオープン化推進チーム（代表 安部田 貞行）が「無線アクセスネットワークのオープン化」について一般社団法人電波産業会会長表彰を受賞しました。

電波功績賞は、一般社団法人電波産業会（ARIB：Association of Radio Industries and Businesses）により、電波の有効利用に関する調査、研究、開発において画期的かつ具体的な成果をあげた者、あるいは電波を有効利用した新しい電波利用システムの実用化に著しく貢献した者に対して授与されるものです。今回の表彰では総務大臣表彰が3件、電波産業会会長表彰が5件受賞となりました。

総務大臣表彰の「第5世代移動体通信システムの実用化に向けた国際標準仕様策定」では、永田が第5世代移動体通信（5G）の国際標準仕様を策定す

る活動において、3GPP標準化会合の場で積極的に活動し、3GPP TSG-RAN（Technical Specification Group - Radio Access Network）WG1の副議長、議長を務め、高速大容量通信の仕様など5G国際標準の策定を大きくリードするとともに、多数の5G関連特許の出願、学术论文の執筆なども行い、5Gシステムの実用化に寄与するなど、電波の有効利用に大きく貢献した点が評価されました。

電波産業会会長表彰の「無線アクセスネットワークのオープン化」では、安部田らがオープンで柔軟かつインテリジェントな無線アクセスネットワーク（RAN：Radio Access Network）を実現するため、昨年2月に海外4キャリアとともにO-RAN（Open RAN Alliance）を設立し、本年3月にドコモが中心となって策定したフロントホール仕様を引き継いだ仕様第1版を公開し、世界の主要オペレータとベンダ27社が本仕様の採用を表明するなど、電波の有効利用に大きく貢献した点が評価されました。



受賞した永田 聡（右）



受賞した安部田 貞行（右）